成人の子がみた親との関係の変容（2）

ー親と「同居」する独身者に注目してー
松岡陽子
（大同大学）

キーワード：成人子－親関係，独身者，同居

Adult filial relationships: The case of two singles living with their parents
Yoko MATSUOKA
(Daido University)

Key words: adult filial relationships, singles, living with parents

目的
松岡（2008）に引き続き，中期親子関係ー子の養育を終え，親の介護が中心的課題となる前の成人子ー親関係ーについて，子の側の視点から検討する。前報では，「別居」をひとつのきっかけとした両親に対する関係や認識の変化に着目したが，ここでは，実家で両親と「同居」し続ける30歳代独身男女の事例に注目し，彼らの両親との関係やその認識について探ってみる。

方法
対象者 30〜48歳の男女，計10名。
手続日 0.5〜1時間程度の面接を個別に実施した。
質問項目は，「親との現在の関係」過去から現在に至る関係変化のポイント，将来の関係展望など。

分析 回答トランスクリプトをKJ法に準じて整理した。

結果
目的に沿って，Dさん（32歳男性；未婚），Eさん（32歳女性；未婚）の2事例を取り上げる。ともに両親は60歳前後。

事例D 現在実在で両親・弟と同居。身の回りの世話は母親に『全部』としてもらっている。両親とは『会う時間が少ない』が，『懐かしめ含め，彼女が家族であることなど話す』が。母親には昔から何も話すが，父親と話すようになったのはこの数年で，『特別何かきっかけがあってそうなりたわわせもない』が，元管理職の父に対し自分も今，部屋が住むに。関係は，『あることがない』。

事例E 過去はしたけれども，『スポーツジムに通ったり』して『行動的だ』し，母親は『Dさん（32歳）弁当作って今まで通り作って』，両親に『取り立てた変化がない』で，ほとんど『年齢を感じさせることはない』だから今後，親が年老いていくことが『現実味がない』く，『正直，あまり考えない』。父親は病を患い，数年前に手術をしたのが，それで親への見方が変わったのであろうという。親との関係性は，自分が『まだ立場的に下で』『色々をもってる』。

考察
両親とも，親との関係において身辺（間接的）経済的サポートを受ける“子ども”としての立場を安定して保持している面と，“大人”として変化してきた面があることがわかる。

事例Dで興味深いのは，親の『自己（子）に対する見方や関わり方』の変化が感じられた。親の『親に対する見方や関係性』の変化はほとんど感じないと語られた点である。

事例Eでは，「大人同士」として親をみるようになったこと（『性格』評価）が，父親，母親への『心理的距離』の変化に逆方向（父＝母，母＝子）の影響を与えている点が特徴的である。

引用文献
松岡陽子（2008）：成人子からみた親との関係の変容（1）：30歳代「娘」の「別居」に注目して 日本発達心理学会第19回大会発表論文集, 597.